

編集後記

◇2010年を迎えた。先の読めない時代ではあるが、平安な年となることを祈りたい。本年も皆様のご支援をいただき、いも類の振興に努めたい。

巻頭言で紹介したとおり、昨年11月、秋篠宮同妃殿下に「いも類ブース」をご視察いただくという栄誉に浴し、大きな元気をいただいた。速断はできないが、近年皇室の方々に、いも類に関する行事等をご視察いただいたのは、過去数回に亘る馬鈴薯原産種農場へのご来場を除けば、今回が初めてではなかろうか。

「話題」の欄では、天皇陛下が皇太子時代の1943年に、ご覧になった「サツマイモの花」の思い出にまつわる日本農業新聞の記事を掲載した。天皇陛下の深い学識と仁徳に敬服する。

◇昨年10月31日に、静岡県の御前崎市民会館で、「食文化さつまいもサミット」が開催された。蒸切干（干しいも）の発祥地である御前崎とサミットの名称に惹かれて足を運ぶ。サミットから新情報を得ることはなかったが、茨城、千葉、埼玉、静岡、熊本、宮崎、鹿児島、沖縄からのサツマイモ産地紹介やいも製品の即売では、熱気が溢れていた。

同じく11月15日には、千葉県香取市で「栗源のふるさといも祭」が開催された。“日本一の焼きいも広場”などの見学に出かけた。来場者が約6万人余の大規模な収穫祭である。サツマイモに関する文化的要素も加味されれば、更に素晴らしい“いも祭”になるように思われた。

また、11月23日、明治記念会館で開催された第48回農林水産祭式典に出席した帰路、明治神宮を参拝する。その際、都道府県からの新嘗祭奉納品である農林水産物に目が止まった。その中で、サツマイモでは千葉、鳥取、宮崎、鹿児島の4県から、ジャガイモでは北海道、東京都からそれぞれ奉納されていた。いも類の振興に託す6県の自然の恵みに対する感謝の心情が読み取れた。

◇本誌102号の特集では、ジャガイモの新品種紹介を取りあつた。平成15年以降に育成された主な新品種で、カラフルポテトを含む生食用、加工用の10品種を、研究者の皆様に紹介いただく。

特集の企画に当たっては、北海道農業研究センターの森元幸バレイショ栽培技術研究チーム長から助言をいただいた。紹介したこれらの新品種が着実に普及し、現在の主要品種である男爵薯、メークインを超えるよう期待したい。

◇（財）いも類振興会の創立60周年記念行事の一環として企画編集を進めてきた「サツマイモ事典」の編纂は、関係者の協力を得て2010年1月末に、刊行の運びとなった。本事典の作成経緯や内容については、本誌の103号で紹介の予定である。

なお、本事典は、2010年2月から有料販売の予定だ。詳細については、事典の企画編集・発行に当たった（財）いも類振興会（電話：03-3588-1040）、又は発売元の（株）全国農村教育協会出版部（電話：03-3839-9160）へ問合わせ下さい。

（狩谷 昭男）